

2020年の入試ターゲット【歴史的重要事件〇周年】

ここ100年で起きた最重要事件 ★はハイレベル 青字は要注意

1920年 国際連盟の成立 … 本部【ジュネーブ】

100周年 国民【社会主義】ドイツ【労働者】党(ナチス)が成立 今年は大注目！

ハンガリー王国が成立 … 摂政に【ホルティ】就任

【ニコライエフスク(尼港)】事件 → シベリア出兵が長引くことに…

【インドネシア】共産党が成立 … アジア初の共産党 モンゴルと間違えない！

【セーヴル】条約 … 連合軍とオスマン帝国の敗戦条約 西アジアの委任統治の地図！

米国で【女性参政権】が認められる 米国で世界初の【ラジオ放送】が始まる WWI後！

米国で【サッコ・ヴァンゼッティ】事件が起こる … イタリア系アナーキストの免罪事件

1930年 【ロンドン】で海軍軍縮会議が開催される … 補助艦の保有率の決める

【香港】★でベトナム共産党が結成される ← ベトナム青年革命同志会(1925)

ガンディーが【塩の行進】を開始する(第2次非暴力不服従運動)

米大統領【フーヴァー】がスムート・ホーリー関税法に署名する

【霧社】★事件 … 台湾で起きた台湾原住民による反日蜂起事件

1940年 【タンネンバルク】の戦い … 包囲された英仏軍の大半は脱出に成功

ドイツ軍が【パリ】へ無血入城 → 【ロンドン】に自由フランス政府が樹立される

リトアニア領事館に副領事だった【杉原千畝】がユダヤ人に大量のビザを発給 これ注目！

フランスの【ラスコー】で洞窟壁画が発見される … クロマニヨン人

1950年 朝鮮戦争の勃発 … 北軍がソウル落とす → 国連軍が【仁川】に上陸する 戦争の流れ注意！

70周年 自衛隊の前身となる【警察予備隊】が発足 → 52年:保安隊 → 54年:自衛隊

1960年 「アフリカの年」… 【17】カ国が独立を達成

新安保条約の調印 ← 【1951】年の日米安全保障条約の継続

【スリランカ(セイロン)】で世界初の女性首相が誕生する … バンダラナイケ女史

南ベトナム解放民族戦線(【ベトコン】)が結成される

- 1970年 【ナイジェリア】★で行われていたビアフラ戦争が終結
- 50周年 日本初の万国博覧会が開幕する … 【大阪】にて 万国博覧会史を見ておく！
チリ大統領選で人民連合の【アジェンデ】が当選 … 重要産業の国有化を進める
- 1980年 【イラン・イラク】戦争が始まる(～88年) ← イラン革命による「革命の輸出」を恐れて…
【ジンバブエ共和国】★が英領の南ローデシアから独立
【光州】事件が起こる … 全斗煥の軍部クーデタと金大中の再逮捕への抗議
JOC 総会の採決で、日本の【モスクワ】オリンピック不参加が決定
ポーランドで民主化運動が起こり、自主管理労組「【連帯】★」が結成される by ワレサ
- 1990年 南アフリカで【マンデラ】が27年ぶりに釈放される → 翌年にアパルトヘイト撤廃 要注意！
- 30周年 アフリカ最後の植民地であった【ナミビア共和国】★が南アフリカから独立
イラクが【クウェート】に侵攻する → 翌年に湾岸戦争が始まる 完全に狙われる！
韓国がソ連との国交を回復する … 韓国大統領【盧泰愚】 頻出大統領の業績！
ドイツ統一 … 首相:コール 大統領:【ヴァイツゼッカー】(1920年生まれ)
- 2000年 台湾の総統選挙で初めて、【民進】党の陳水扁が当選 *現在は蔡英文(民進党)

キリの良い年 … 今年は何周年？

- 1420年 北京に【紫禁城】が完成する
- 1520年 【スレイマン1世】即位(土)、マゼランが【太平洋】に到達、【ラファエロ】の死去(伊) 絵！
- 1620年 【ピルグリム=ファーザーズ】のプリマス上陸(米)
- 1720年 南海泡沫事件(ロンドン金融市場の混乱) → 【ウォルポール】が収拾にあたる
- 1770年 【クック】一行がオーストラリアに上陸、英領有権を主張、【ベートーヴェン】の生誕(独・音楽家)
- 1820年 立憲革命(西)、【ミズーリ】協定(米)、【ミロ】島でヴィーナス像が発見される
【ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世】の生誕(伊・国王)、【ナイチンゲール】の生誕(英・看護師)、
【大院君】の生誕(朝鮮)

今年気になる話題 **アメリカ大統領選挙 & オリンピック & 2020ビジョン**

2018年下半期～2019年上半期で何が！？

その1:香港は中国に呑まれるのか？戦いは始まった！

2019年3月31日、香港で香港政府が出した「逃亡犯条例改正案」に抗議する大規模デモが開始された。中国政府に対して批判的な発言や行動をした政治犯を中華人民共和国本土に受け渡すという条例改正案は長い間イギリスの自由主義を謳歌してきた香港人には到底受け入れられないことである。2016年末に起きた行政長官選挙法改正案に反対して起きた「**雨傘運動**(警官による放水に対抗するためにデモ隊が雨傘を所持してデモをしたことに由来する)」以来の大規模なデモとなった。結局、同年9月4日に、香港の林鄭月娥(キャリー・ラム)行政長官は「逃亡犯条例改正案」を正式に撤回したと発表した。しかし、デモ隊は「時すでに遅し」と徹底抗戦の構えを見せている。

現在の香港は段階的にイギリスとの関係を深めていった。アヘン戦争の講和条約である**南京条約(1842)**でイギリスが初上陸した「**香港島**」が割譲された。その後、アロー戦争の講和条約である**北京条約(1860)**でネイサン通りというメインストリートが南北に走る「**九龍半島南部**」が割譲された。もともと香港は珠江の河口に位置する良港で、対岸には1517年に**ポルトガル人**が漂着、1557年に居住権を獲得、**1887年**にポルトガルが併合した「**マカオ(澳門)**」がある。

1998年に行われた中国分割では、99カ年条約が清とイギリスの間に結ばれ、これまでに割譲された2カ所に加え、半島北部の新界地区と周囲の島々を加えた「**香港**」を99カ年租借することが約束された。そして、1882年の**英首相サッチャー**と**中国首相趙紫陽**との香港返還協定に基づき、**1997年**に50年間の限定による「**一国二制度制**」の採用が約束されての返還となった。**1999年**には「マカオ」も同条件のもと、ポルトガルかを中国に返還された。

その2:ノートルダムを包んだ炎は涙では消えない…

2019年4月15日、フランスは悲しみに包まれた。いや、フランス人だけではないかもしれない。**セーヌ川**中州にあるシテ島には多くの人々が集まり、無残な姿となった大聖堂に涙していた。ローマ=カトリックが絶頂を迎えた13世紀初め、**フランス王ルイ9世(聖ルイ)**はこの「ノートルダム大聖堂」の造営を指示した。**ゴシック建築**の最高峰ともされるこの大聖堂の名は「母なる救世主」つまり「マリア信仰」の代表的な建

造物であり、他国にも同名の聖堂がいくつか存在する。

フランス革命中に一部が破壊されたが、19 世紀初めの七月王政期に修築された。『**レ＝ミゼラブル**』の著者**ヴィクトル＝ユゴー**なども再建に寄与している。

ローマ的な半円筒アーチを特徴とする**ロマネスク建築**の次に流行したこの建築様式は、尖頭アーチと薄い壁・大きな窓と**ステンドグラス**を特徴とする芸術性の高い様式である。この大聖堂以外にも、シャルトル大聖堂・ランス大聖堂・カンタベリー大聖堂などがある。

その3:米口に利用されたイスラーム宗派戦争の背景とは？

2018 年 10 月2日、トルコのサウジアラビア領事館でサウジアラビアのジャーナリストであったカショギ記者が殺害された。サウジアラビアの現政権を批判していたカショギ氏が殺害されたことで、サウジアラビアの実質的指導者であるムハンマド皇太子の関与が疑われ、アメリカを中心とする欧米諸国からトルコ政府に対して殺害に関する様々な情報を公開するよう要求がなされた。しかし、国家機密として防犯カメラ以外の詳細の情報は公開されず、結果的に殺害にかかわった領事館関係者および数名の暗殺団とムハンマド皇太子との関係は闇に葬られる形となり、その後、何もなかったかのように皇太子は訪日を果たした。**シリア内戦**ではスンナ派という括りで**反アサド側を支援する2国**の癒着が表面化することとなったが、これは**対イラン**でサウジアラビアと親密な関係のあるアメリカが火消しに力を貸したことは言うまでもない。

1932 年に**イブン＝サウード**により建国されたサウジアラビア王国は 18 世紀半ばに生まれた**ワッハーブ派**(原始イスラーム教＝アラブ民族主義に基づくイスラーム教)が基盤となっていて、この宗派は世俗化した**イスラーム神秘主義(スーフイズム)**を嫌う傾向にある。また、ワッハーブ派の成立の背景にはオスマン帝国(トルコ人)によるアラブ人支配に対する反抗でもあった。

しかし、**1922 年にオスマン帝国が滅亡**し、翌 23 年にトルコ共和国を建国した**ケマル＝パシヤ**は、トルコ民族主義を唱えながら、反政府的な宗教活動を行う可能性のある**神秘主義の活動を禁止**した。このことは、トルコ共和国とサウジアラビア王国との関係を良好にした一因でもある。また、トルコ共和国・サウジアラビア王国とも、**1979 年にホメイニ師によるイラン革命**によって、アメリカ寄りの**パフレヴィー朝**を滅ぼして成立したシーア派の現在の**イラン＝イスラーム共和国**を敵視している。661 年に**アリー**が暗

殺され、ウマイヤ家の**ムアーウィヤ**がカブクでカリフの権威を掌握したことが、約 1400 年後の中東世界を混乱させている要因となっていることはとても嘆かわしいことである。

その4:中国の台頭に米ロ核戦争の危機再来!?

2019 年 8 月 2 日、**中距離核戦力(INF)全廃条約**を失効した。直接的な原因は、2016 年にアメリカがルーマニアに地対空迎撃システム「イージス・アシュア」を配備したことに対し、ロシアが欧州にあるロシア領(飛び地)となっているカリーニングラードに短距離ミサイルシステム「イスカンデル」を対抗配備したことにある。しかし、今回の条約失効の背景には、軍事的に台頭しながらもこの「**INF全廃条約**」に入っていない**中国**が軍備拡大を図り、この中距離核ミサイルを製造しつつあるということだ。**トランプ大統領**の懸念は、ロシアよりも中国の軍事力増強にあった。米ロ中 3 国による軍拡競争がエスカレートし、再び「軍拡抑止」の時代へ歴史を逆行させないか不安である。

1987 年、ワシントンにおいて**レーガン米大統領**と**ゴルバチョフソ連邦書記長**によって署名された中距離核戦力(INF)全廃条約は、経済上の問題でソ連側がヨーロッパに不安を与えていた中距離核兵器を廃棄するという画期的な提案から生まれた。

SALT(戦略兵器制限交渉) I は 72 年に締結させ、II は **1979 年のソ連のアフガニスタン侵攻**の背景に批准されなかった。そうして生まれた「**第 2 次冷戦**」を終局に向かわせた条約としての意義は強い。ブッシュとゴルバチョフによって署名される 91 年の**戦略兵器削減条約(START I)**につながった。

その5:ペルシア湾の要衝は昔から狙われた!?

2019 年 6 月 13 日、**ホルムズ海峡**付近で日本とノルウェーの海運会社が運航するタンカーが襲撃を受ける事件が発生した。イラン政府が関与しているという噂が先行し、原油が一時高騰した。

ホルムズ海峡は、地中海の出入口ともなっている**ジブラルタル海峡**と共に交易では非常に重要な場所であった。大航海時代以前は、ムスリム商人の寄港地としてアラビア半島南端の**アデン**やインド西南岸の**ゴア**、**マラッカ海峡**のマラッカと共に重要視された。アイユーブ・マムルーク朝に保護された**カールミー商**

人を中心としたムスリム商人は**ダウ船**を使い、インド洋・アラビア海を縦横無尽に駆け巡った。その拠点となった**ホルムズ島**がこの海峡にある。

大航海時代の到来で、**サファヴィー朝ペルシア**の支配にあったホルムズ島は**ポルトガル**が獲得した。しかし、サファヴィー朝全盛期を築いた**アッバース 1 世**が 1622 年にポルトガルからホルムズ島を奪回、ペルシア側に**バンダレ=アッバース**という港湾都市が建設され、インド系商人やヨーロッパ諸国の商館が建てられ、サファヴィー朝の貿易の拠点となった。

その6:シンハラ人仏教徒によるホロコーストはやめろ！

2019 年 4 月 21 日、**スリランカ**で同時爆発事件が発生。日本人の女性 1 人を含む 200 人以上がなくなり、約 450 人が負傷した。100 名近くのイスラーム過激派のメンバーを拘束したスリランカ政府は安全宣言を出した。しかし、複雑な宗教事情を抱えるスリランカで起きたこの手の民族・宗教問題はそう簡単に解決できないほど根が深い。その後、スリランカ社会はテロの後遺症に揺れ続けた。テロ事件では、**イスラーム過激派がキリスト教徒を襲った**。しかし今は、**多数派の仏教徒の一部がイスラーム教徒の住居や店舗などを襲撃する暴動**が各地に広がり、宗教対立の深まりが深刻になっている。

もともと、この国は、多数派の**シンハラ人仏教徒**が**少数派タミル人ヒンドゥー教徒**との対立・共存を繰り返してきた。1815 年の**ウィーン議定書**でこのスリランカは**オランダからイギリスへ**割譲された。1877 年に**インド帝国**が成立すると、イギリスはスリランカにおける**茶のプランテーション**の労働力として、南インドからタミル人を移住させた(**クーリー:苦力**)。1948 年の**独立**後もタミル人の多くはスリランカに残り、少数派として抑圧され続けた。1950 年代に成立した**バイダラナイケ女史**のシンハラ人政権下では、仏教が国教され、シンハラ語が公用語とされたことも、迫害の一因となったのだ。こうして、冷戦終結後の 1990 年代に、少数派タミル人過激派が「**イラム解放のトラ**」(LTTE)というテロ組織を結成し、自爆テロを繰り返した。こうして、スリランカは内戦状態に陥ったのである。

2009 年の**シンハラ人政府によるヒンドゥー教過激テロ組織の掃討作戦**が成功に終わり、内戦は終結し、安全な観光地となっていた。そして、今回はさらに超少数派のイスラーム過激派が事件を起こしたことで、政権側のシンハラ人仏教徒は…またか！と言った気持ちになったであろう。